

## D-1 その後

この単元は7月に学習したが、8月の終わりに、よさこいソーランの練習に使う鳴子が見つからなくて、「鳴子、鳴子。」と叫んでいたのが、9月になると、驚くほど上手に二語文を使うようになった。

### 【これまでの会話文の例】

- ・「〇〇のばあちゃん（母親方の祖母）が来る。」（運動会）
- ・「体育館に行きます。」（朝早く）
- ・「お母さんのカバン（を）買い物に行ったとき持ったら重かった。いろいろ入っていた。」  
（重たいの反対のことばが分からなくて、先生の例を聞いて話してみる。）
- ・「（担任の服が）光っている。」と言い、「夜、光る？」と、聞き返す。
- ・「お姉さんが（自転車で迎えに）来ます。」
- ・「あぶが来た。」と腕を指して、ジェスチャーでこすったら、「ちょっと垢がでた。」と恥ずかしそうに笑って知らせていた。（朝の話）
- ・「頭にシャンプーが付いている。」と数回言うので見たら、血のかさぶたや腫れがある。
- ・「先生に持ってきました。」と、実入りのいい栗1つ、どんぐり2つを持ってきた。
- ・「いねかりをしました。犬、つくしの散歩をしました。お母さんと（指）相撲して疲れた。」と連休の話をした。
- ・「先生のところに息子いる？先生の娘どこにおるん？」と尋ねた。
- ・『イルカにあいたい』の本の説明をした。「正ちゃんです。4歳で病気になりました。イルカにあえた。」などを話した。「Mも7歳の時、心臓の手術をしました。（傷跡を見せた）。」など結びつけていた。
- ・「ばあちゃんが、牛舎からりんごを持ってきました。夜、食べました。（入っている袋を指差しながら）1つ持ってきました。6限目のクラブで使います。」（朝の話）（過去・現在・未来をつなげた話は始めてだった）
- ・「歯磨き粉が（袋に）ありません。」とあわてて告げに来た。（歯磨きの時）（鳴子と比べたら成長がはっきりする。）

伝わる話ができるようになり、話す楽しさが増し、朝の会で一回しか発言しなかったのに、「他に？」と自分で言い、何回も発言するようになった。

項目		1	2
1 事例の概要	A	A-1 学校研究	
2 実践内容	B	B-1 単元計画と評価計画	B-2 指導法の工夫
3 指導の実際	C	C-1 指導案	
4 成果と課題	D	D-1 その後	
5 その他	E		